

IV 親子のコミュニケーション(乳幼児期・幼児期)

赤ちゃんは世界を知りたい！（乳幼児期）



こんなことはありませんか・・・？

ゆうくんは、生後8ヶ月。はいはいができるようになってから、部屋のあちこちを動き回るので、お母さんは、目が離せません。ものを持って振り回したり、口に入らないおもちゃをなめたりするので、すぐに取り上げなければなりません。お母さんは、疲れてしまって、外に散歩に出かけるのもおっくうです。ゆっくりゆうくんに話しかけることができません。お話ができるようになって、言うことをきくようになったら、外に出かけ、いっぱいお話したいと思っていますが、今は、これでしかたがないと思っています。



ワーク1

あなただったら、ゆうくんのお母さんにどんな言葉をかけてあげますか？



ワーク2

あなたと赤ちゃんが二人っきりでいるとき、赤ちゃんはどんなことに喜びますか。

（例）「うちの子は、〇〇すると、ニコッとする。」



- 次の資料を読んでみましょう。
 - ◇ 豊かな感性が「心」を育む
 - ◇ ことばの育ち

○あなたは、赤ちゃんにどんなことをやってあげたいと思いましたか。
お隣の人に話してみましよう。



赤ちゃんはな、話すことはできなくても、見たり、聞いたり、触れたり、感じたりして心を育てているもんじゃよ。まわりの大人の穏やかな声で、赤ちゃんに心地よさをたくさん味わわせてあげたいのう。

やさしく抱きしめたり、話しかけたり、体を触ったり、動かしたりしながら、話しかけるのもいいのう。いろいろな音を聞いたり、いろいろなものを見たりするのも、赤ちゃんにはうれしいものじゃ。

◇ 豊かな感性が「心」を育む

赤ちゃんは、身の周りがあるいろいろなものに興味を示し、なんでも手で触ったり、口に入れたりします。そばで見ているお母さん、お父さんは、ついそれを取りあげてしまいがちですが、危険でない限り、様子を見ながら赤ちゃんが自由に過ごせることが大切です。

赤ちゃんは物に触ったり、なめたりすることで、冷たい、熱い、フワフワ、ゴツゴツといった感覚を感じとっています。こういった感触・感性をフルに活動させています。

特に、土の感触、草花の香り、鳥の鳴き声など、自然から感じられることは数限りなくあります。お母さん、お父さんも赤ちゃんと一緒に自然にたくさん触れ、「風が気持ちいいね」「鳥の声が聞こえるね」など、語りかけてあげると、赤ちゃんは感覚・感性で体験したことを吸収していきます。

こうした乳幼児期のたくさんの体験が、豊かな感性や心を育む基礎になります。

出典：「心をはぐくむ」－乳幼児期に大切にしたいこと－
（公益財団法人 ソニー教育財団）



◇ ことばの育ち

乳児期、幼児期のことばは、情緒的に最も深いかわりを持てる人、たとえば、アナタとのやりとりやかかわりでことばが生まれます。アナタと子どもがことばや行動などで相互にやりとりすることで、互いがつながり合っているような充足感や満足感が溢れ出てくるのです。これは、この時期にアナタが子どもの気持ちを的確に読み取り、そこに適切なことばが添えられることで、ことばの意味が子どもに伝わり互に通じ合うことでつくられるのです。

コミュニケーションを取ったり考えたりするのに必要なことばは、子どもが表出した行動や指さしたものの、発したことばなどを聞き流したり見過ごさないで、「あれは、ニャーニャー、猫ですよ」「まんまおいしい、おいしい」などと、意味づけしてやることなのです。リンゴと発声したり、名前だけ教えても、リンゴがどういうものなのか知らなければ意味が通じ合いませんし、コミュニケーションが取れないのです。

出典：「子どもと楽しく暮らしたいアナタへ」佐木みどり著 相川書房



毎日子どもにかけてやる言葉のシャワーは、できれば美しいもの、心地よいもの、温かいものであってほしいものじゃのう。赤ちゃんが身体で感じたことを一緒に感じて、語りかけたいものじゃ。

子どもにしっかり向き合って育てられる時期というのは、思いのほか、短いもんじゃよ。肩肘はず、困ったときは誰かに助けてもらえばいいんじゃ。子育てを楽しんでな。